

福岡県立山門高等学校



同窓会だより

2006.3.1

第9号

本校の発展をイメージした 記念庭園



▲創立90周年クリスタル記念碑

山門高校創立90周年記念事業

募金総額

31,860,712円

ご協力ありがとうございました。

昨年までの同窓会館建設のための基本財産・積立金と併せて同窓会館「柏友館」・「記念庭園」が完成しました。

また国道から校門までの進入道路も拡幅工事がなされ、大型車両の出入りも容易になりました。

「記念事業 募金活動を終了」



山門高校同窓会
会長 板橋 元昭

山門高校同窓生の皆さん、お元気で過ごすごしでしょうか。母校創立九〇周年記念同窓会事業へのご協力誠に有難うございました。昨年八月末日を以って募金を終了させていただきました。募金にご協力いただいた同窓生等は二、五八〇人、募金総額は三千一八六万七二二円でした。目標額には到達しませんでしたけれども昨年までの同窓会館建設のための基本財産積立金と併せて同窓会館「柏友館」と「記念庭園」を完成させることができました。

母校の正門をは入ると左手に「柏友館」、右手に「記念庭園」があり景観も一段と良くなりました。「柏友館」の入口には一本の柏の木が植えられ、その根本に校章の由来を刻んだ記念碑が設置されています。柏の木は落葉樹でありながら翌春新しい葉が出るまでは古い葉が落ちることはありませぬ。一年中葉をつけて成長していくのです。「継続は力なり」という言葉があります。私達の同窓会も柏の木にあやかっけて永遠に発展してゆきたいものです。

視点が必要になってきました。地球温暖化が懸念され、平和を希求すべし世界各国に民族や宗教の対立が生まれ、凶悪なテロ事件が頻発し、国内では倫理感、道徳感、宗教感の欠落を如実に感じる事件が多発し家庭教育、学校教育、社会教育等のあり方が問われています。

特に学校教育の現場は情報化社会の影響が大きく生徒達の戸惑いは勿論のこと、指導される先生方も大変なご苦労が伴う様になっています。より良き社会人として社会に役立つ人間を育てるための学校を取巻く環境に同窓会や地域社会が深くかかわる必要性を痛感します。

山門高校は学びの場であり、集り散じて人は変わってゆきますが、僅か三年間であつても貴重な青春の一時期に山門高校に理想の光を求めて集った仲間意識が同窓会の原点であり基盤であり力です。

地球上のあらゆる地域で活躍されている山門高校同窓生の皆さん、毎年五月三日（憲法記念日）に開催します同窓会総会には是非時間を割いてご参加下さい。そして旧交を暖めていただくと同時に皆さんが持つておられる体験とエネルギーを母校の後輩達の自信の糧として与えていただきます。様切望するものです。

今年もお元気で活躍される様祈念しご挨拶いたします。

ご挨拶



山門高校
校長 古賀 俊一

山門高校同窓会の皆様には、日頃から母校の教育の充実・振興のために格別のご支援・ご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

昨年三月に完成した創立九十年記念庭園は、校章を配した記念碑を中心にして放射状に伸びた造形美が、本校生徒・職員はもとより来客にもすこぶる好評で、安らぎと品格を感じさせるものとなっております。懸案であつた国道から校門までの進入道路も、同窓会のご尽力により拡張がなされ、バス等の大型車両の出入りに支障をきたすこともなくなりました。生徒たちは、日に日に整えられていく環境に感謝の念と誇りを感じながら、学校生活を送っております。

現在、本校では「第一希望での進路実現」を継続的な重点目標として掲げ、「文武両道」の教育方針にしたがって教育活動を展開しております。生徒の部活動参加率は80%と、県内でも有数の高さを誇り、玉竜旗剣道大会では、優勝校に敗れたものの本州各県のトップ校を2校撃破する快進撃を見せました。また、北京で行われた国際交流事業の合唱部門県代表として、本校から2名派遣されました。生徒たちは部活動等を楽しみながら

も、本分である学業を疎かにすることなく、滝判とした高校生活を過ごしております。また、職員も山門高校生に対して愛着をもって接し、「厳しい中にも温かみのある親身な指導」を合言葉に、熱心に指導にあたっております。この取り組みは、本校の掲げる重点目標の達成に必ずやつながるものと確信しているところであります。

さて、本校は各学年5学級、全校生徒六百名規模となり、生徒数はひと頃の数半となつております。そして将来的には、この規模を維持することも厳しい状況にあります。本校の通学区（第11・12学区）内の中学校卒業見込者数は、現在の約三千四百名から、5年後には四百名（10学級相当）減の三千名となり、その後もさらに減少が続くものと見込まれます。このような中で、地域や同窓生の皆様のご支援のもと、他の普通科高校と同様を画した本校の特色化を図っていく必要を強く感じております。

着任以来、「普通科理数コース」の活性化こそが本校全体の特色化、活性化のための最重要課題と考え、改革を進めてまいりました。理数コースは、募集人員が二十名となつたのを機に難関理系大学を目指すための独自の行事を構築いたしました。昨年度から、理科や数学に対する興味・関心を高めるための土曜特別授業「わくわくドキドキ講座」、日本科学未来館をメインとした二泊三日の「夢発見東京研修」を実施しております。今年

の東京研修の「ようこそ先輩」では、清水建設技術研究所上級研究員で工博の壇一男氏（53年卒）に「地震と建築」と題した講話をいただいたり、32年卒の宮前純子さんや33年卒の松尾武昌さんにおいていただき、後輩たちを激励していただきました。その他にも、文部科学省の推進する「科学技術・理科大好きプラン」の一つである「サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）」に県下の高校で唯一採択され、放射線の観察や電子顕微鏡の操作など、高校の施設・設備では実施困難なものにも取り組ませることができました。

このような取り組みの中から、将来への夢を見出し、強い意志をもって努力する生徒を一人でも多く育てたいと考えております。

同窓生の皆様には、理数コースを中核に据えた学校活性化の取り組みに対するご理解とご支援を切にお願ひ申し上げますとともに、山門高等学校同窓会ですとすの発展を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。



▲拡幅した国道から校門までの進入道路

平成十七年度 同窓会総会を終えて

前年度委員長 五十八年卒 松尾 泰弘

平成十七年五月三日、山門高校同窓会総会が盛大に挙行されました。本総会のために、ご多用中にもかかわらず、参加していただいた同窓会会員及び関係者の皆様、本会にありがとうございました。実行委員会を代表いたしまして、心から感謝申し上げます。また、チケット販売におきまして、理事の皆様を初めとする諸先輩方のご協力により、多数の販売ができました。重ねてお礼を申し上げます。

昨年度は、山門高校創立九十周年記念事業としての同窓会館（柏友館）と記念庭園の落成式が同窓会総会に先立って行われました。第一部の総会では、朝早くから多数の方々の出席により、熱心な審議がなされました。第二部では、元東京オリオンズ（現千葉ロッテマリーンズ）野球評論家の村田兆治氏を招いて記念講演を行いました。村田兆治氏がこれまで経験したり、克服したりされたからこそ見えてくる人生哲学について、熱い講演がありました。出席者が約九百名と、予定していた数を上回り、慌てて椅子を並べるシーンも何回もありました。第三部の懇親会でも、多数の方々の参加があり、アトラクションを交えながら、楽しい懇親のひと時を過ごしていただけたものと思っています。

山門高校同窓会は、同窓会会員の皆様にとつて、再会と情報交換の



▲サインボールのプレゼント

平成17年度卒業生
(平成18年3月卒業)

同窓会クラス役員

| | 男子 | 女子 |
|----|-------|-------|
| 1組 | 甲斐田裕治 | 山田 唯菜 |
| 2組 | 倉吉 訓 | 松尾満知恵 |
| 3組 | 江口純一郎 | 吉田 雅恵 |
| 4組 | 森下 賢 | 千代鳥真美 |
| 5組 | 高野 智成 | 古賀三也美 |

最近の生徒数の減少にともない、同窓会総会の担当学年も数の上で、なかなか容易には集まらない。感謝いたしております。

山門高等学校関東地区同窓会
日時：平成十八年四月十六日(日)
場所：九段会館二階(皇居の側)
正午より
松尾武雄 自宅(四〇七二二〇四七五)
同窓会先任(三三三二八二七八)七五

福岡山門会総会のご案内
名称：福岡山門会総会・前年度
日時：平成十八年四月八日(土)
午後二時半より
場所：福岡山門会ホール
(博多大丸上階16F)
会費：男性七千円 女性六千円
福いせ先：☎〇九二四八二二三六
橋アパ内 橋山まで

みならず、愛校心や同窓意識を高める場であり、さらには、「元氣、やる気」をやりとりする場でありたいと考え、約一年間の準備に取り組んできました。途中では、物事が予定通り進まず、同窓会会員の方々にご心配をお掛けし、私たちも心配や不安に押しつぶされそうになったことが幾度となくありました。しかし、同窓会総会が近づくとつれ、実行委員の数が増えるとともに、協力を通しての仲間意識も強くなり、きつさ・大変さ以上に、楽しさを感じるようになりました。前日・当日とも、五十八年卒業生がスタッフとして大勢参加してくれました。特に当日は、約九十名もの仲間が駆けつけてくれて、一緒になって活動することができ、新たな出会いや発見がありました。四十年という節目の年に、同窓会総会の担当という大役を与えていただき、感謝いたしております。

最後は、山門高校同窓会会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げますとともに、平成十八年度同窓会総会が昨年度以上の盛会となることを心より願っております。

新名物先生

シリーズ

その①



みつちゃんこと
松尾ミチ子先生

新シリーズ「名物先生」は、あの日、あの頃、あの世代に活躍された恩師を訪ね、あの頃の情熱を思い出していただくという企画です。第一回目は先生は、昭和41年から平成3年まで26年間に渡り山門高校体育教師のゴツトねえちゃんとして君臨された、みつちゃんこと、松尾ミチ子先生です。

○山門高校での一番の思い出は？

いっぱいありすぎて、思い出に順番はつけられないけど、でも、新体操で、県大会に連続で出場した事や、進学クラスを受け持つようになって、生徒の希望する進路に次々と決まっていた時は、やはりうれしかった。とにかく夢中で、全てに一生懸命だった。教師がやらないう生徒はついてこない。進路指導も、単に成績順に大学を勧めるのではなく、昔は高校でも家庭訪問があり、その子の家庭環境や将来性、生徒の性格に合った進路指導をした。

○生徒を伸ばしてゆくには？

本当にこの高校の三年間というのには、どんなにでも伸びていく可能性がある。思わしくない成績で入学した子が、有名私立

大や国立大学に合格する例はいくらでもある。今の子は、少子化のせいかな、ハングリー精神がない。いかにその気にさせるかが大事。例えば、タイプの違う子を組み合わせる。数学の得意な子と、英語の得意な子を組み合わせ、競わせるのではなく、互いが協力し合い切磋琢磨する。そうするとクラス全体が伸びていく。

私は、やかましい先生だったかもしれないけど、体育の技術面や、点数で叱った事はない。ただ規律面では厳しかった。あの年度の卒業式。その当日だけ超ロングスカートをはいて来た生徒がいた。私は、式に出さないといった。他の先生は、今日で卒業だからと。でも私は、卒業したいのならば替えなさい。最後には説得に応じ、在校生のスカートを借りて卒業式に出した事もあった。

○今後の抱負は？

今はフラダンス教室をかねて持ちでやっている。とにかく楽しむ事が目標。上手・下手は別。綺麗なドレスを着て、本場のハワイで踊る事が楽しみ。練習が終わった後も、みんなとおいしい食べ物のお話や健康談義。まだまだこれからよ。(笑)

平成十八年度 同窓会総会に向けて テーマ「ときめく未来へ！ 人を育てる環境づくり」



実行委員長
昭和五十九年卒
宮崎 一誠

同窓生の諸先輩方！早春の朝、ますます御健勝のことと拝察いたします。

さて、本年度の同窓会総会はわたくし昭和五十九年卒が担当させていただきますことになりました。スタートから出遅れていたことは、昨年の総会に出席された先輩方は御存じのことと思えます。ところが、本日の障害はわたくしたちの学年が、在学中から成績や進路の面で先行きを危ぶまれるような問題学年であったことにありました。新人類の嚆矢として先生方にはなかなか一筋縄ではない難しい学年として当時は御苦労をかけたことと思います。そんなわたしたちも卒業して早、二十二年を迎え、みな社会の中心として各方面で活躍する社会人となりました。にもかかわらず再び今日相変わらず同様にみなさまに御心配をおかけすることになるのは何の因果でありますか。

重ねております。何卒、諸先輩のみなさまには暖かく見守っていただければ幸いに存じます。

本年度の同窓会のテーマは「ときめく未来へ！人を育てる環境づくり」にいたしました。例年よりも、内容がかわいたテーマでもありますが、日本が世界の先陣を切つて人口がマイナスに転じるなど、環境の変化、わたくしたちの生き方の対応の変化をテーマに取り上げるのはタイムリーであると考え決定いたしました。環境問題が叫ばれる昨今、わたくしたちの生活意識としても、地球規模の環境を意識せざるをえなくなりました。温暖化その他がなんらかの影響をおよぼしていると思われる最近の異常気象、有明海の変化、針葉樹ばかりの山々、自然な暑さ寒さを感じることにない人工的環境など様々な環境の変化のディテールが日々の生活で実感されます。そうした都市化の進む流れの中で、生活環境の変化が知らず知らずのうちにわたしたち人類の質的变化をもたらしています。

上でも、こうした生存環境に配慮することはうっかり見落としがちですが実は切実な問題であります。

こうしたことを堅苦しくなく、ろんなエピソードを交えて話していただけたらと思う。講師の選定をいたしました。講師は、工学博士であり、またタレント、ピートたけし（北野武）氏の実兄であられる現淑徳大学教授国際コミュニケーション学部教授、北野大氏を招く予定です。

北野氏は環境化学がご専門で経済産業省化学物質審査委員会、環境省中央環境審議会委員も務められていることから、未来の日本を見据えた環境へのアプローチを次世代への教育面も踏まえて多面的に語っていただけるものと思えます。第、たけしさんと共に育つた家庭教育の実体験、世界で活躍する人材へと兄弟揃って成長された秘密など、非常に興味深いお話もふんだんにもりこまれていでしょう。話の面白さはたけし以上とも、テンポの良さはやはり兄弟とも評されますので、ぜひとも在校生の方々にもご聴講をお勧めいたします。

てみなさまにおもてなしの心とサプライズを提供したいと思っております。すべてをここで明かすわけにはいきませんが、元気のつく料理、癒しを与える音楽、生きる活力をもたらす出逢いと語り合いを体験いただきリフレッシュされた精神と肉体を社会での御活躍に近づけていただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、この度、竣工された真新しい同窓会館を利用させていただくことができ、一同大変感謝しております。同窓生の寄付のもとに出来上がったこの

進路状況

進路指導主事 木本 和宏

現在の本校の進路指導は、「一歩発見プラン」をベースに行っています。これは、学部学科及び職業を研究する机上活動と大学の先生による説明会や生徒自ら大学を訪問するオープンキャンパス等の体験活動からなり、一年次から体系的に行う「進路学習」です。生徒は、自分の将来像を描きながら目標に向けて努力しています。

さて、十八年度入試は新教育課程入試元年であり、センター試験では内容が大きく変わります。また、薬学部の六年制、短大の四年制への変更が相次ぎ、大学への進学率は毎年上昇しています。特に本校では、高度な知識、技能を

建物は山門高校同窓会の発展と結東の象徴であります。生徒数の減少で学校のサバイバルが厳しさを増していると同じですが、母校を失った全国数十万人の他校同窓会に比ぶれば、なんとわたくしたちの幸せなことでしょう。実行委員としての活動の経験は、山門高校の社会人研修プログラムの一環であるともいえ、人生の後半を生きていく上で新たな友情を育んでいくことができます。

「大学全入時代到来」と言われていますが、国公立大学の競争は激化しているのが現状です。本校の生徒の約八割は国公立大学志望です。

本年度の三年生は在籍者数の約七割にあたる一二六名がセンター試験に出願、例年以上の出願率で進学意識の高さを示しています。また、九州大学を始めとする難関大学を目指す生徒が多いことにも期待しています。

学校の指導目標である「第一希望での進路実現」を達成するよう全力で指導して参ります。

今後とも同窓会の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

編集室より
本年の会報9号は、昭和五十八年卒の実行委員会編集いたしました。快く寄稿していただいた感謝いたします。



▲北野 大氏

また懇親会のプランではこれまでにない変わった趣向を取り入れ

また懇親会のプランではこれまでにない変わった趣向を取り入れ